

シクラメン栽培における灌水方法と鉢の違いによる影響

専門学校山梨県立農林大学校養成科園芸学科花き専攻 清水空

【目的】

シクラメン鉢物生産においては以前は素焼き鉢を使用していたが、市場から鉢を軽量化して欲しいという要望や比較的安価で大量に入手が可能なることから、現在はプラスチック鉢を使った生産が主流となっている。しかし、夏季の温度が上がり、温暖化に対する技術やマイプラスチック対策が課題となっている中、これらの課題解決に『素焼き鉢』が利用できないかと考え、灌水方法も含め素焼き鉢とプラスチック鉢が生育に及ぼす影響を明らかにする。

【試験内容】

試験区の設定

プラスチック鉢区 素焼き鉢区

*鉢のサイズは4.5号鉢。灌水方法は生育初期段階は上部手灌水で行った。8月13日以降、上部手灌水と底面給水で実施し比較した。

調査項目及び方法

生育調査：葉枚数（生育初期から1週間に一度実施）、株径、株高（9月以降から実施）

開花数（11月中旬の出荷時期に実施予定）

根張り、球根の大きさ（12月下旬実施予定）、地温

【試験結果】

1日の地温の推移は図1を見て分かるように10時の灌水のタイミングを除いて約2℃低いということが分かる。



図1 夏期におけるプラスチック鉢と素焼き鉢内の地温(8月9日)

表1を見ると次のことが言える。株径、株高は生育には変化があまり見られなかった。葉枚数は最終的にはプラスチック鉢の上部手灌水の区が最も枚数が多いということが今回の研究から分かった。

表1 鉢の種類及び灌水方法の違いが生育に及ぼす影響(10月28日調査)

鉢の種類	灌水方法	葉枚数(枚)	株高(cm)	株径(cm)
プラスチック鉢	上部手灌水	82	11.23	31.73
プラスチック鉢	底面給水	56	10.19	25.52
素焼き鉢	上部手灌水	67	11.07	29.35
素焼き鉢	底面給水	58	8.37	29.26

【考察】

素焼き鉢を使用した場合、夏期の鉢内の地温上昇が抑えられ、プラスチック鉢に比べ生育が優れているということが明らかとなり、温暖化に伴う酷暑に対応できる栽培方法として有効であると考えられる。このことにより、プラスチック鉢から素焼き鉢に移行するための一助となる。また、マイプラスチック削減対策として導入のきっかけになると思われる。今後は素焼き鉢の他に木材の鉢の利用も有効と考えられることから、本校の森林学科と連携し県産の木材で作った鉢などの検討を行い、環境に配慮した花き生産を進めていきたい。